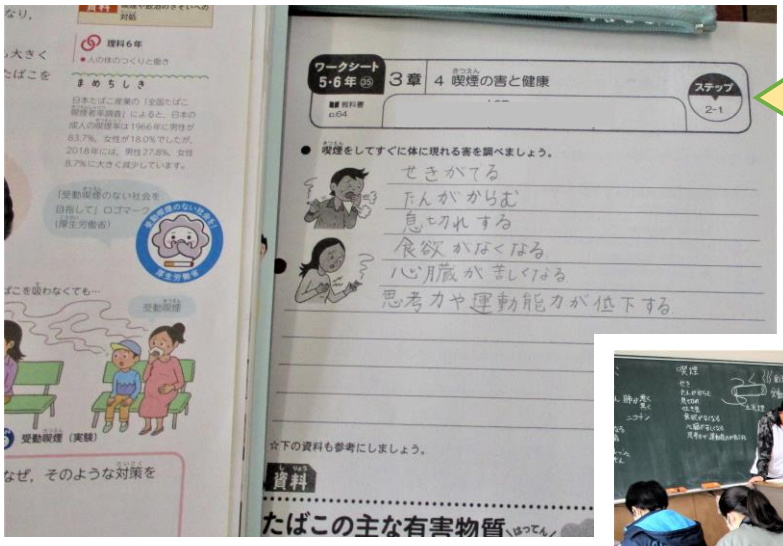
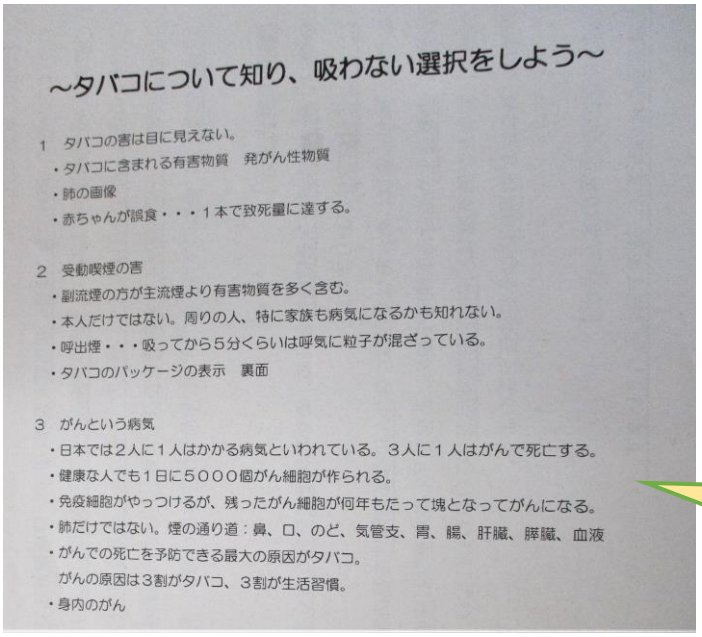
6年生の保健「喫煙の害と健康」の学習　2月15日(火)

健康によくないと分かっていても、一度吸い始めるとなかなかやめられないのがタバコです。中学校へ進学する前に正しい知識を身に付け、健康に気をつけて生活を送ってほしいと思います。
担任と養護教諭の TT（ティーム･ティーチング）で授業を行いました。



喫煙をするとどんな害があるのでしょうか？
まず、教科書を読んで調べ、ワークシートに記入しました。

子どもたち自身の知識を含め、数多くの害が板書されました。
それなのに、喫煙をするのはなぜか、なぜやめられないのか･･･といった疑問が浮かんできました。

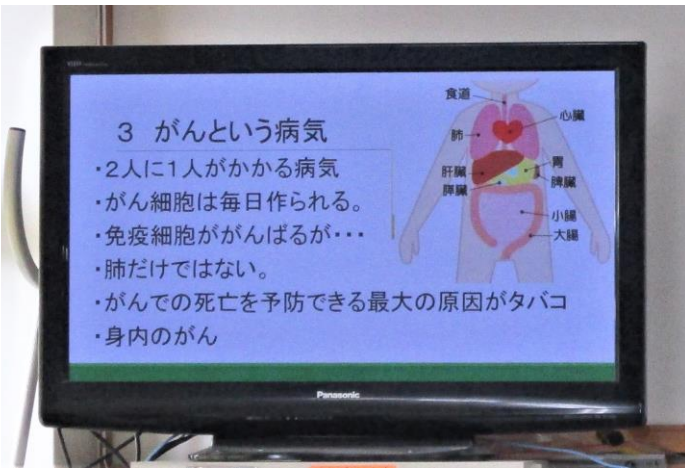


～タバコについて知り、吸わない選択をしよう～

1　タバコの害は目に見えない。
- タバコに含まれる有害物質　発がん性物質
- 肺の画像
- 赤ちゃんが誤食・・・１本で致死量に達する。

2　受動喫煙の害
- 副流煙の方が主流煙より有害物質を多く含む。
- 本人だけではない。周りの人、特に家族も病気になるかも知れない。
- 呼出煙・・・吸ってから５分くらいは呼気に粒子が混ざっている。
- タバコのパッケージの表示　裏面

3　がんという病気
- 日本では２人に１人はかかる病気といわれている。３人に１人はがんで死亡する。
- 健康な人でも１日に５０００個がん細胞が作られる。
- 免疫細胞がやっつけるが、残ったがん細胞が何年もたって塊となってがんになる。
- 肺だけではない。煙の通り道：鼻、口、のど、気管支、胃、腸、肝臓、膵臓、血液
- がんでの死亡を予防できる最大の原因がタバコ。
  がんの原因は３割がタバコ、３割が生活習慣。
- 身内のがん



授業は「タバコとがんの関係性」ついての学習へと進みました。

日本人の２人に１人が罹るといわれているがんです。

体験を交えた養護教諭の話を、児童は真剣に聞いていました。

最後に「タバコを勧められたときに、どのように断ればよいのか」という問いを投げかけ、授業は終わりました。